



千枚田かかしの服はLサイズ
豊橋市 小川五百子
鞍掛がドラマ生み出す夕月夜
外記子

アストラゼネカ社地域に貢献

十一月一日(水)、世界に六万五千名を抱える医薬メーカー「アストラゼネカ」はこの日、全社員約三千名を国内四十カ所の棚田などに派遣、四谷の千枚田には県内支店の社員七十四名が訪れ、三班に編成、一班は副会長の指揮で千枚田入り口付近にツツジ、サツキ、アジサイを植樹、女性陣は藁切り、藁まき、草取りを、二班は田吾作代表の指揮で石崖の草取り、三班は会長の指揮でふれあい広場の植樹、休息場の草取りなどに汗を流しました。

この事業は「高齢化する村を応援するプロジェクト」としてNPO法人棚田ネットワーク、東京ボランティア・市民活動センターの協力、農林水産省後援で開かれたものです。四谷の千枚田では愛知万博の「昔の脱穀」や「サミット」で大変お世話になり、馴染み深いネットワーク代表の中島峰広先生(棚田学会副会長)から、また、同事務局の高野光代

女史からは「これもすべて、棚田ふるさと日本国?のためですので:・(甘い言葉)などと、達つての頼みから、受け入れが余儀無くされました。当方としてもボランティアの受け入れは初めての事で「本場に街場の者が野良仕事など出来るのか、怪我などされたら困っちゃう」など懸念要素がつきない。そこで、「怪我なんか あつちやあかなわん」ということで保存会、田吾作、棚田っ娘、お助け隊の有志が出役、植樹場所の地拵えや藁切りなど、安全対策を事前に行いました。

市長さんも企業が社会に貢献、しかも、四谷の千枚田で奉仕活動をして頂くことに強く関心を持ち、記者懇談会にも図っていたいただき、同時に「四谷の千枚田を支援する」と約束されました。当日は大型バス二台、自家用車数台が同時に訪れ、バスから降り立った七十四名のメンバーを見てビックリ仰天、皆若い、娘っこ(女子社員)もシラウオのよう

な手をしたベツピン揃いだ。「こりやあゝ野良仕事は無理だ」と直感した。何はともあれ、編成した三班に分かれ、作業を開始した。始め「なかなかやるじゃん」と思っていたら「なかなか性がいいな」に変わり、次第に「休みながらやつとくれん」と言うほどに、それぞれの持ち場の作業を積極的にこなしていただいた。(舜)も愛車「ダックスフント」で見廻りながら娘っこ達に「藁を撒くには気に入らない上司に後ろからぶつつける要領で」とか、草をむしる要領は「こん畜生」と捻り取ればいい・などと、いらんことを言つて廻り、溜飲をさげました。何れにしても善くやつていただいた。各班長のお礼の交換会では地元として「期待の120%の出来であった」とか「あなた達が植えたサツキやアジサイの生長を見ながら、来年も是非来て下さい、お待ちします」など、AZ社からは各班長さんから「慣れない仕事で足手纏いにならなかつたか、少しでもお役に立てればと、社員全員が一生懸命やった、

すがすがしい気持ちをいただいた」等々の挨拶が交わされました。

きれいに整備された石崖を前に記念撮影



きれいに整備された石崖を前に記念撮影

反省会

- ・皆んな善くやつていただいた。社員の誠意実直がみられ、会社の姿勢が伺われる。
- ・娘っこ(女子社員)を一カ所のみでなく、全体に振り向けないと焼き餅を焼く班がでる・・・(笑い)。
- ・広兄い(最長老)の鼻の下が伸びっぱなしだった。
- ・初めての経験で戸惑ったが、来年も来て頂けるなら、作業は勿論、棚田米を食べてもらおう。等々。

連谷小学校「千枚田に学ぶ」 田起こし

十一月二日(木)、連谷小学校の全校児童十一人は千枚田の田起こしを行いました。



ふれあい教室

十一月二十六日(日)、祖父母や一人暮らしのお年寄り、明老クラブや千枚田でお世話になった人などに子供たちの手書きの招待状を送り、学校田で収穫した糯米で餅つき大会や「昔の遊び」体験・伝承コーナーなどを設け、お年寄りや校区の人たちと、三世代のふれあい教室が開かれます。

インフォメーション

十一月四日、東海日日新聞「学校地域家庭」欄に連谷小学校の千枚田を中心とした活動が掲載されました。
《千枚田の掲示板に掲示》

エコドライブラリー

「奥三河“味・走”選手権!!」

十一月十八日(土)、新城ラリー2006の関連事業として奥三河一帯の名所、味巡りを通じ、地域活性化を目的に開催されました。その第1チェックポイントが四谷の千枚田となり、ラリー車両三十台(約百名)が訪れ、その接待にお助け隊と保存会のお母さんが千枚田の新米で「おにぎり」や「お茶」の接待、ラリー車両の駐車スペースへの誘導、一般通行車両への交互通行指示などの協力を行いました。

エコラリー第1チェックポイント



餅つき大会

田吾作では、十二月十日(日)、山都共生の理念を主眼に恒例の餅つき大会を行います。

今年は長雨と冷夏で心配された作柄も、盆過ぎの好天残暑で何とか持ち直し、豊作となりました。

当日は、田吾作こだわりの餅米でのし餅・あんころ餅などをたくさん振る舞う所存です。

また、にぎり寿司やバーベキューも用意しますから、お出掛け下さい。
田吾作一同

お助け隊の制服



げなげな噺

⑯ 馬桶石

鞍掛山に馬桶石があるのを知つとるかん・ふん、知つとるわいのん、雨乞いの石づらあり、雨がちつとも降らんで、千枚田の田んぼが植わらん時にやあく、馬桶石の水を掻い出しゃあ、雨が降るつちゅうじやんかん。昭和になつてからでも雨が降らんで困つた時にやあ、村の衆が鉦をたたきながら「雨乞い唄」を唄

いながら山に登つて馬桶石の水を掻い出したつちゅうじやんかん・そうずらかう

あの馬桶石はのん、鳳来寺を開山した利修仙人が天馬に乗つて彼方此方飛び廻つた時分に鞍掛にも寄り、あの馬桶石の水を飲んで一息ついでのに、それから馬桶石を蹴つとばして作

手の龍頭山に一つつ飛びしたつちゅうだげなぞん。

ちやんと馬の蹄の痕がある

でのん・ほおく・

湧き水

善意

カメラ消失 その後 恩師から「形見にやるから、使え」と高級カメラを戴いた。学校では誉められた覚えはトンと無いが、今になつて褒美を貰つちやつた。

全国から「お悔やみ？」のメールや手紙が沢山届いた。頑張りますが、まだ、チヨットしニリは残る・・・



行 平成十八年十一月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二